

愛媛県立新居浜病院ニュース

vol.17 平成 23 年 11 月発行

- 地域周産期母子医療センター開設（産婦人科）P1 地域周産期母子医療センター開設（小児科）P2
DMAT 訓練について P4 新任医師紹介 P4 手術室紹介 P5 検査室紹介 P6

地域周産期母子医療センター開設 産婦人科

産婦人科の経緯

- 平成 20 年 4 月 産婦人科外来新設。
医師 2 名：村上（昭和 63 年広島大学卒）、矢野（平成 2 年愛媛大学卒）。
平成 20 年 12 月 新生児・小児病棟に未熟児新生児室 10 床（呼吸器 1 台）、産婦人科病棟開設。
24 時間当直体制で産科診療を開始。
平成 21 年 4 月 上野（平成 18 年金沢医大卒）赴任。
平成 23 年 4 月 **地域周産期母子医療センター**に認定。
松原（昭和 63 年愛媛大学卒）赴任。
平成 23 年 9 月 清村（平成 9 年愛媛大学卒）赴任。（松原：当院を退職し、松山 NTT 病院へ）。



特に産科診療は平成 20 年の病棟開設時には東予地方の地域周産期母子医療センターが不在の状態であったため、地域の産婦人科の先生と連携し当院が地域周産期母子医療センターとなることを目標に頑張ってきました。この目標で産科診療を開始するにあたり小児科（新生児科部門）、麻酔科（緊急帝王切開など緊急手術）の連携を強め、関係するスタッフのマンパワーの充実などが病院施設の整備、強化につながると考えていました。

現在の産婦人科の状況を報告させていただきます。
医師は 4 名で病棟看護師 17 名（内助産師 10 名）、外来看護師 2 名、看護助手 1 名で産婦人科を運営しています。外来患者（月平均約 50 人の新規紹介患者）、入院患者（月平均約 15 人の時間外母体搬送・時間外診療依頼患者）とも紹介患者が主体で分娩数は約 20～30 例/月、手術数も約 20～30 例/月で約半数が産科手術で緊急帝王切開の比率が高いのが特徴です。

診療内容では専門外来は設置していませんが産婦人科一般の疾患はほぼ診断・治療が可能です。悪性腫瘍の患者も年間 30～40 人治療していますが施設的に整形外科、眼科などが休診中であり放射線設備が骨盤内照射に適していないため当科での治療が患者の不利益になると考えられる場合、愛媛大学附属病院、四国がんセンター、住友別子病院放射線科に紹介させて頂いています。

2 年 3 ヶ月が経過し、新生児の管理、並列の緊急手術ができないなど課題・問題点は解決できず地域周産期母子医療センターに反対の意見もありましたが、産科診療開設時の緊急母体搬送の受け入れの条件は変えないことで平成 23 年 4 月に地域周産期母子医療センターとなりました。数ヶ月にわたる入院管理を必要とする患者も増加し、病棟が満床に近い状態が続くことが増えました。

切迫早産や妊娠高血圧症、胎盤早期剥離、前置胎盤など母体の生命に関わる疾患も妊娠 35 週 0 日以降であれば当科での出産が可能となりますが、34 週以前の母体搬送依頼の場合、当院搬送後に県立中央病院に母体搬送を原則としていますが、状況によっては直接県立中央病院に母体搬送をお願いしています。



最後に今後、地域周産期母子医療センターとして地域の産婦人科との連携を密にし、産科部門の外来、病

棟機能を強化し地域の母児の安全のために頑張りたいと思います。

産婦人科病棟 栗林恵津子 看護長からのコメント

産婦人科病棟は、開設して3年目を迎えます。平成21年は81件、平成22年は102件の母体搬送を受け入れました。今年4月から地域周産期母子医療センターに認定となり、緊急母体搬送の患者が増加すると考えられます。地域周産期母子医療センターとしての機能が果たせるよう、他部門との関係を密にし、救急に対応でき母子の安全が図れるように、スタッフの知識・技術の向上とシステムの見直しを行っていきます。

年間の分娩件数としては180件前後であり、過去2年横ばいでしたが、現在徐々に分娩予約件数は増加しています。当院でお産してよかったと満足して退院していただけるような分娩の関わりを行いたいと思っています。また、「**母乳育児のための10か条**」を大切に考えた母と子供を育てる母乳育児支援、出産後に地域で母親同士が相談できる仲間づくりを考えた母親学級にも力を入れたいと思います。

1. 母乳育児推進の方針を文書にし、すべての関係職員がいつでも確認できるようにする。

2. この方針を実施するうえで必要な知識と技術をすべての関係職員に指導する。

3. すべての妊婦に母乳育児の利点と授乳の方法を教える。

4. 母親が出産後30分以内に母乳を飲ませられるように援助する。

5. 母乳の飲ませ方をその場で具体的に指導する。また、もし赤ちゃんを母親から離して収容しなければならない場合にも、母親の母乳の分泌を維持する方法を教える。

6. 医学的に必要でない限り、新生児には母乳以外の栄養や水分を与えないようにする。

7. 母子同室にする。母親と赤ちゃんが終日一緒に居られるようにする。

8. 赤ちゃんが欲しがる時はいつでも母親が母乳を飲ませられるようにする。

10. 母乳で育てている母親のための支援グループ作りを助け、母親が退院するときにそれらのグループを紹介する。

9. 母乳で育てている赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えない。

母乳育児のための10か条



地域周産期母子医療センター開設 小児科

周産期母子医療センターはスタッフ・施設ともに充実して**高度な周産期・新生児医療**を行うことのできる**総合周産期母子医療センター**とそれに準ずる**地域周産期母子医療センター**に分けられます。愛媛県下にはこれまで、愛媛県立中央病院に総合周産期母子医療センターが、愛媛大学附属病院・松山赤十字病院・市立宇和島病院に地域周産期母子医療センターがありました。今年度、**愛媛県立新居浜病院と愛媛県立今治病院に地域周産期母子医療センターが開設されました。**と言っても当院の場合、今年度新たにセンターとしての施設が建てられたわけではありません。施設自体はこれまでと同じで、平成20年12月に改築された

▼ 小児科病棟スタッフ

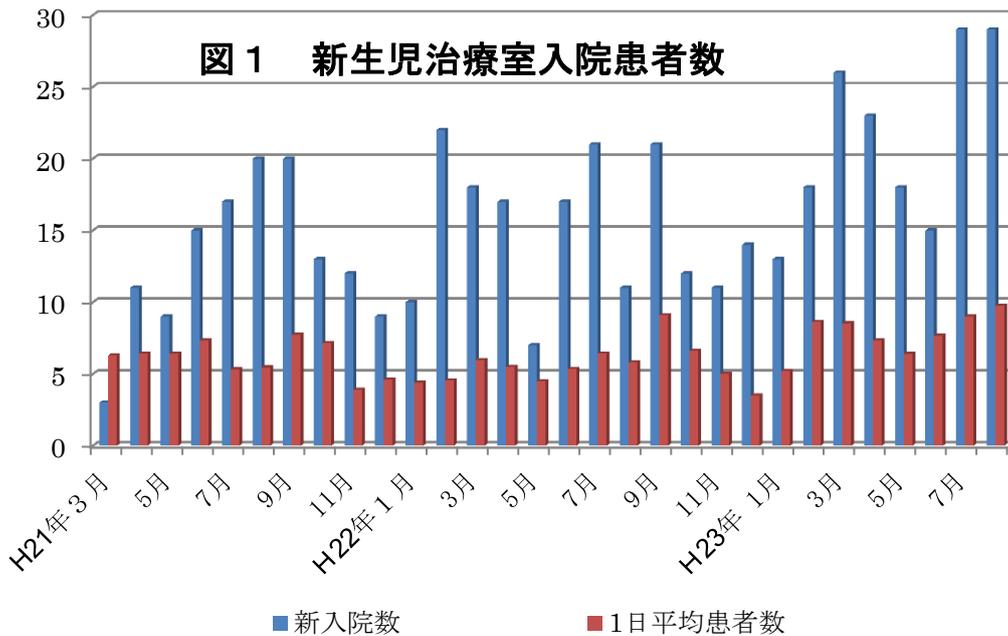


当科の新生児治療室が新生児集中治療室に名前を変えただけです。しかし、スタッフ・人員は整備され、診療レベルの充実も進んでいます。

5病棟（小児病棟）の病床数はもともと小児一般部門が24床、新生児部門が10床でしたが、新生児部門の内訳がNICU（Neonatal Intensive Care Unit：新生児集中治療病床）3床、GCU（Growing Care Unit：継続保育病床）4床、一般3床となりました。スタッフは小児科医5名、看護師23名、看護

助手2名で小児病棟全体の診療にあたっています。看護師は新生児と一般小児の担当グループが分かれており、10名が新生児治療室に専属となって、新生児治療室内は昼夜2名体制で勤務しています。医師は全員が交替で当直医としてNICUの診療にあたっていますが、一般小児の診療もあわせて担当しています。

新生児治療室の入院患者は図1に示す通り、波がありますが、年々増加しています。



とくに今年度になって、院内での帝王切開後に入院する患児が月20名を超え、一昨年・昨年の7名、10名と比較して明らかに増加しています。周産期母子医療センターの役割は産科医と小児科医が協力して、より安全な出産の手助けをし、母体の安全を確保しつつ、新生児医療をスムーズに行うことにありますので、周産期のリスクを減らすための帝王切開数が増加する

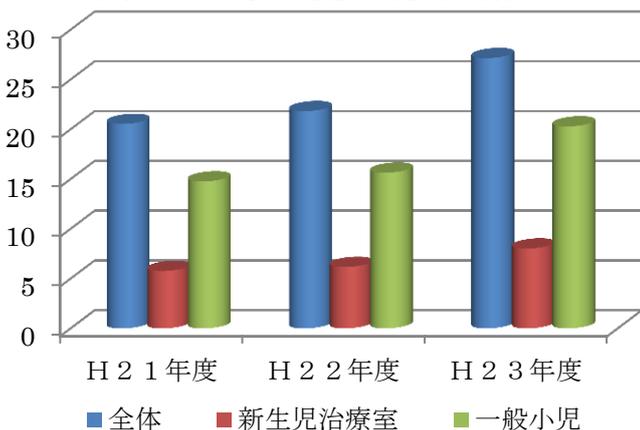
ことは、当院の周産期母子医療センターとしての役割の充実を示すものと考えています。

また当院での治療が困難な患児が出生したり、他の病院から搬送されて来た場合は、初期治療を行った上で愛媛県立中央病院、愛媛大学附属病院などの上位の総合病院へと搬送することも地域周産期母子医療センターの重要な役目です。この搬送症例数も今年度はずでに5カ月で10名を超え、昨年1年間あたり13名と比較して著明に増加しています。周産期母子医療センターとしての稼働が着実に始まっていると考えます。

また、新生児だけでなく、今年度は一般小児の入院数も増加が見られており、入退院の激しい病棟で忙しい診療の毎日を過ごしています(図2)。

まだまだ、周産期母子医療センターとしては不十分な部分が多々ありますが、一同がんばって参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

図2 一般小児入院患者数



小児科医監部長 楠目 和代

DMAT 訓練

平成 23 年 9 月 9 日(金) 新居浜市南消防署のご協力により県立新居浜病院DMATチームの6名が、防災ヘリ搭乗訓練を行いました。

当院ヘリポート



※DMATとは、医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。

機内ではヘッドフォンをして会話をします。

今回ご協力くださった
新居浜市南消防署の方々とDMAT隊員。



取材を受ける明比医師
当日はマスコミも各社取材にきていました。



新任医師紹介



いぬら まさと
井村 真里

Q1 専門分野は？
A1 心臓血管外科

Q2 医師になった理由は？

A2 親孝行です。

Q3 趣味・特技は？

A3 部屋の掃除です。

Q4 患者様に接する際、心がけていることは？

A4 分かりやすい説明です。

Q5 ひと言どうぞ。

A5 とにかくがんばります。



きよむら まさき
清村 正樹

Q1 専門分野は？
A1 産婦人科

Q2 医師になった理由は？

A2 何かを治（直）したり、創ったりすることに興味がありました。建築士もなりたいた職業でした。

Q3 趣味・特技は？

A3 ゴルフ

Q4 患者様に接する際、心がけていることは？

A4 平等

Q5 ひと言どうぞ。

A5 よろしく願います。



元気、はっらっ、新居浜病院手術室です(*^^)v



手術室診療方針

1. 新居浜病院としての機能を十分発揮し、速やかに、かつ安全を第一とした手術を提供します。
2. 患者、家族へのインフォームドコンセントを十分に行い、不安なく手術に臨めるよう援助します。
3. 医療チーム間のコミュニケーションを密にし、連携を強化します。
4. 倫理的配慮を基盤とした医療を提供します。



手術室スタッフ構成

麻酔科医：3名、看護長：1名
手術室看護師：18名（うち男性5名）、看護助手：1名



手術室の特色



麻酔科：楠目医監部長からのコメント

手術室スタッフは手術室内の業務はもちろんのこと、救急外来や緊急心臓カテーテル、内視鏡検査治療にと手術室の外でも活躍し、忙しく働いてくれています。病棟のスタッフに比べると患者さんとの会話は少ないだろうと思うのですが、手術に来られる患者さんに少しでも快適に過ごしてもらおうととても気を使っているメンバーです。彼らの術前・術後訪問による情報は我々麻酔科医が聞き出せないようなものもあって、とても助かります。人数も十分ではなく、緊急手術のための待機の回数も多く大変なようですが、明るく、にぎやかな手術室、これからもよろしく。



手術室：近藤看護長からのコメント

手術室は3ルームあり、心臓外科・脳外科・外科・産婦人科・耳鼻科・泌尿器科・内科（ペースメーカー挿入）・皮膚科の手術を日々行っています。年間の手術件数は約1,000件で、麻酔科医師をはじめ、スタッフ全員が一丸となって日々頑張っています。

手術室の業務は、手術に直接携わるだけでなく、手術前の準備や手術後の器械・部屋の片付けなど、見えない部分での業務にも時間を要します。更に、術前・術後訪問を行い、継続看護に力をいれるとともに、医療の進歩や各手術への手順の見直しなども日々勉強をしています。

また、病棟看護師の方が関連部署の手術の見学を希望されれば、お受けしています。

このように仕事も充実していますが、季節に応じた行事も行っています。

今後とも皆様のご協力、ご指導をお願いいたします。





みなさん こんにちは 県立新居浜病院 検査部です

検査部の現状

検査部は、臨床検査技師13名と臨時職員1名で構成され、一般・生理検査部門、血液・輸血部門、生化学・免疫部門、微生物部門、病理部門、超音波検査部門と大きく6つのグループに分かれています。

専門資格	
超音波検査士	3名
細胞検査士	1名
国際細胞検査士	1名
緊急臨床検査師	2名
血液認定技師	1名
愛媛県糖尿病療養指導士	1名
認定サイトメトリー技術者	1名
二級臨床検査士	1名



人員の配置については、スタッフの転勤や退職、機器の導入による省力化などの影響を受けるため、将来を見越した計画的なローテーションは難しい状況です。本来なら若い人は規則的に異動をし、幅広く経験したうえで興味のある分野に入ってもらいたいのが理想的なのですが・・・。

このような中、検査の分担については、1人が少なくとも2つの検査項目を担当できるようにするという方針のもと、宿直などによるスタッフの不在をカバーし、誰が休んでも対応できるような体制作りを行っています。

他部門との協力体制

検査部のスタッフは、ICT、NST、医療安全管理対策、輸血療法、クリニカルパスなどのさまざまな委員会に所属しています。また、患者さんや家族を対象とした糖尿病教室では、講義を担当するなど他部門と協力し積極的にチーム医療に参画しています。

技師長あいさつ・新スタッフ紹介



土居 重敏技師長

県立新居浜病院に着任して2年数カ月が経ちました。古の栄華を匂わす山郷と祭りで賑わう住民のエネルギーがとても気に入っています。さて、検査部スタッフの自慢をしておきますとドクターに専門医制度がありますように検査にも認定制度があります。難関を突破した認定技師が各部門を担当し安心できる検査を心がけております。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。



杉山 満美係長

今年度、中央病院から新居浜病院に配属されました。この年齢になって初めての転勤なので、悲しい事に頭も体もなかなか思う様についていけず、悪戦苦闘しております。半年近く勤務して感じるのは、新居浜病院は、職種を越えてみんな仲がよく新居浜病院をとっても愛していて、みんなが一丸となって病院の事、患者さんの事を考えているなあと感じます。私も早く、新居浜病院の一員となれる様に私なりに、頑張りますのでよろしくお願い致します。

